

作物名 **とうもろこし(未成熟)** (イネ科) J A 2022 版

標準作型 ○印・播種(種まき) □印・収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル			○			□						
露地				○	○		□	□				
露地抑制							○			□		

**栽培のポイント**

同一品種の他の株の花粉が着かないと実入りが悪くなるので、一列での栽培はやめたほうがよい。種子色の異なる品種を同一圃場や近接した圃場で作付けしないこと。高温性で葉面積が大きいので、地温を確保し、適正な土壤水分を保つ必要がある。

**品 種** ゴールドラッシュ (サカタ)：中早生。種子色は黄色。トンネル栽培にも適する。  
 ゆめのコーン (サカタ)：中早生。種子色は黄色と白色のバイカラー。根が強い。  
 味来 390 (朝日工業)：中早生の高糖度品種。種子色は黄色。発芽率やや低い。  
 ピーター610 (サカタ)：中生の抑制栽培用品種。種子色はバイカラー。  
 キャンベラ 90 (タキイ)：中生の抑制栽培用品種。種子色は黄色。粒皮が柔らかい。

**畑の準備** 播種の2週間前に、苦土石灰 (10kg/a)・堆肥 (100kg/a)・化成肥料を畑全面に施し耕しておく。

**元 肥** (1a 当たり使用量)

ジシアン有機化成 S 806 号	16 kg	播種 2 週間前
BM ようりん	4 kg	

**播 種** (種まき) (トンネルの場合) 3月上旬にビニールやポリエチレンのフィルムによる1重のトンネル内にマルチを張って2粒播種し、保温しながら6月中下旬に収穫する。うね幅70㎝、条間45㎝2条、株間25㎝を標準とする。マルチを数日前に張って、地温を上げておくことが大切である。2月中下旬に播種する場合は、2重トンネルが必要である。発芽後葉数が2~3枚になったら、昼間の温度35℃を目安に換気する。  
 (露地の場合) 4月上旬~5月中旬に2条以上でまく(うね間60㎝・株間30㎝)。一箇所2~3粒の点まき(テンマキ)にし覆土は3~4㎝くらいにする。

※ 播種量の目安： 3~4dl/a

「育苗」 播種後にカラス等による食害を防ぎたい場合は、ポットにまき草丈10㎝ぐらいになってから移植する方法もある。

**間引き** 草丈15㎝位で一本にする。

**中 耕** 草丈が30㎝程度になったら通路の除草を兼ねて中耕する。

**追 肥** (1a 当たり使用量)

NK化成2号	4 kg	1ヶ月後
--------	------	------

**受 粉** 先端に咲く花が雄しべをもっている穂を雄穂といい、横から出てくる穂を雌穂という。雌穂の先のひげがめしべとなっており、花粉が風で運ばれて受粉するので人工授粉の必要はない。1条に長く植えるより2条植え、さらに「正方形」に植えるほうが受粉しやすく、植える本数が多いほど良い実ができる。

**病虫害防除** 雄穂が、出穂する直前から出穂直後にかけてアワノメイガの防除を行う。アワノメイガは雄穂に産卵し、その後、茎内を下方部に下がり、雌穂が出ている茎の部分に穴を開け、スイートコーン内部を食害する。従って、雄穂に食入されたあとでは、防除効果が劣る。粒剤タイプの場合は雄穂出穂直前に葉と葉の筒状になっている部分に上からかけると効果が高い。また、受粉が完全に終了したら雄穂を早めに除去することによってアワノメイガの被害を減少させることができる。

**収 穫** 雌花の絹糸が出てから20日後頃の、毛が茶色になった頃が収穫適期となる。